



新春を彩る絶品落語、
笑う門には福来る！

Cover Artist Interview

五街道雲助

Kumosuke GOKAIDO

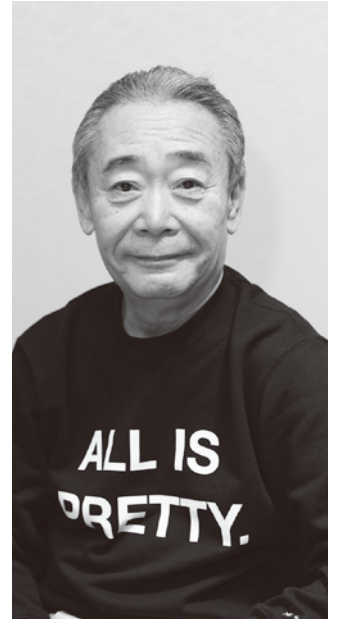
落語家

明治大学商学部中退後、1968年2月1日、十代目金原亭馬生に入門。前座名は「金原亭駒七」。

1972年11月、二ツ目昇進。「六代目五街道雲助」と改名。二ツ目昇進時、師匠の十代目金原亭馬生にお願いをして、手拭いの柄を描いて貰った時に「六代目でいいやなあ」と言われ、そのまま「六代目」と描かれたので、その後「六代目」と名乗っているとのこと。1981年3月、真打昇進。2009年、文化庁芸術祭優秀賞受賞。2014年、芸術選奨文部科学大臣賞大衆芸能部門受賞。2016年11月に紫綬褒章を受章。古典落語の中でも廓話、圓朝噺を得意とするが、怪談噺でも評価が高い「正統派の雄」。



五街道雲助 〈落語家〉



「かに寄席 初席」
新春から縁起良く、
落語&浪曲をたつぷりと。

風の吹くまま気の向くまま、自由に姿を変えながら悠然と大空を漂う、はぐれ雲のような孤高の芸人。端正な面持ちと粋な芸風で江戸前を感じさせる、当代随一の名人・落語家が8年ぶりにアールに再登場。

「かに寄席・初席」は2015年に三遊亭圓丈さん、入船亭扇辰さん、林家彦いちさんと一緒に出演されて以来となります。

8年前？もうそんなになりますか。落語家には定年退職がないとはいえ、私も団塊の世代ですから、同期の多くは膝やら何やらを痛めたりして、年相応の衰えは避けられませんが、おかげさまで私はなんとかやっておりません。またデルタ株のとき、コロナに感染して2週間も隔離生活を送った時は辛かったけれど、今はすっかり元気になりました。また可児に伺うことができて嬉しいです。

昭和の名人と呼ばれた五代目・古今亭志ん生の長男である十代目・金原亭馬生師匠に弟子入りし、落語家となって今年で55年になるそうです。

師匠馬生は1982年に54歳で亡くなり

ましたから、その年齢を越えてしまった：芸の方は超えないで（笑）。まわりのいろんな先輩がたの薫陶を得て、ここまで来ることができた。そして寄席に育ててもらったのだと思います。酒蔵の中でお酒が美味しくなるのと同じように。

落語界に「五街道」という方は他にはいらっしゃいませんよね。「雲助」という名前もユニークです。

入門して最初につけていただいた芸名は「金原亭駒七」でした：7番目の弟子だったので。二ツ目に昇進する時、師匠馬生が常々「隠居したら「五開堂雲輔」にでもなるか」と言っていたのを思い出して、その名前を頂戴したら、そのままだと年寄りくさいからと「五街道雲助」という表記に変えてくれたんです。過去にも「ごかいどうくもすけ」を名乗った落語家が何人かいたらしいのですが「五開堂」だった「五街道」と書くなどいろいろ。それに「雲助」とは五街道の宿場から宿場へと荷物運搬していた「人足」のことで、現代ではタクシー運転手の蔑称として使用されたこともあって、なかなかの「悪名」なのですが、風の吹くまま気の向くまま、自由に姿を変えながら悠然と大空を漂う、はぐれ雲のようなイ

メージで自分ではとても気に入っております。



師匠の3人のお弟子さんもそれぞれ珍しい名前ですね。

「桃月庵白酒（とうげつあんはくしゅ）」と「蜃気楼龍玉（しんきろうりゅうぎよく）」は先代が亡くなってかなり経つ古い名前。「隅田川馬石（すみだがわばせき）」も、志ん生が一時期名乗っていたことがあります。それぞれ師匠にとられることなく自分の道を進んで欲しいと願って付けたものですが、みんなすっかり一人前になってくれて嬉しいかぎりです。

International Theatre Conference Forum Final in Kani

世界劇場会議
国際フォーラム
Final in 可児

主催：（公財）可児市文化芸術振興財団

共催：NPO 法人世界劇場会議名古屋

劇場は社会に何ができるか、社会は劇場に何を求めているか
～文化芸術による社会的処方の実践と評価～

開催日 1/26(木)・1/27(金)

会場 小劇場

参加費 3,000 円

申込方法 <https://sgfm.jp/f/ITCF2023inKani>

※開催スケジュール及び詳細はアール WEB サイトやパンフレットをご覧ください。

登壇者

セーラ・ジー（スピタルフィールズ・ミュージック代表理事）

ゾイ・アームフィールド（ロイヤル・リヴァプール・フィルハーモニー管弦楽団）

福島明夫（青年劇場 劇団製作責任者）

伊藤達矢（東京藝術大学社会連携センター特任准教授）

森 合音（四国こどもとおとなの医療センターアートディレクター）

落合千華（慶應義塾大学 SFC 研究所上席所員・一般社団法人 CoAr 代表理事）

衛 紀生（可児市文化創造センター ala シニアアドバイザー）

栗田康弘（可児市文化創造センター ala 顧客コミュニケーション室長）



ここ数年の「初席」のネタを確認してかぶらないように気をつけて、皆様のご期待を裏切らないように頑張ります。他の人があまりやらないような噺がいいですね。そして新春に相応しく、『夜鷹そば屋』（※新作落語『ラーメン屋』を雲助師匠が時代を江戸に変

それはいいですね。自分はまだ「すみだトリフォニーホール」の舞台には出演したことがないけれど、区民にとって自慢のホールです。私は「すみだ」で江戸落語に出てくるような人たちとのやりとりのなかで生まれ育って、「江戸のことば」など自然と身についたものを活かして仕事にしているわけです。

アーラのお客さんにはクラシックのファンと同じように、落語好きの方も多いので「初席」にも大いに期待してお待ちしています。

師匠は墨田区の生まれで、現在も本所にお住まいとか。可児市は「すみだトリフォニーホール」を本拠地とする新日本フィルハーモニー交響楽団と縁が深いことで知られています。

えて、古典落語風にした噺）のような、じんわりと心温まるようなものがいいいですね…大笑いネタは柳家三三師匠に任せて（笑）。

今回は落語あり浪曲ありの、充実のラインナップです。

三三さんは現在の落語シーンを背負って立つ、中堅のどこの代表。そんなネタどころから仕込んでくるんだらうっていつも驚かされます。浪曲の玉川奈々福さんとは何回か一緒にやったことがあります。彼女も今の勢いづいている浪曲シーンを象徴する存在。そして上方の露の瑞さんとは、今回が初めてですがとても華がある方のように楽しみです！それでは1月22日にお会いしましょう。

取材／東端哲也 撮影／中野建太 協力／フリーペーパーMEG

特典!!

初席

着物でご来場の方には、
鎌倉・銭洗い弁天で
洗った5円玉を
大入り袋に入れて進呈。



こいつは春から
縁起良し!
落語&浪曲、
名人話芸を
たっぷりと

初席
かに寄席
後進



後進

五街道雲助

柳家三三

露の瑞

玉川奈々福
(浪曲)

© 柳家三三

日時 1/22(日) 14:00開演 ※開場 13:15

アーラの風物詩「かに寄席 初席」。
新春を彩るいぶし銀の絶品落語をたっぷりとお楽しみください。

会場 主劇場

料金 全席指定 4,000円 25才以下 2,000円

発売中



情緒豊かな語り、心に響く三味線の音

可児常磐津教室 ^{はる}巴瑠の会 第9回 おさらい会

日時 2/12(日) 13:00

常磐津は歌舞伎の伴奏音楽として江戸時代に流行し、現代まで語り継がれています。巴瑠の会生徒による素浄瑠璃をお楽しみください。
出演：可児常磐津教室 巴瑠の会 講師：常磐津 巴瑠幸太夫

会場 小劇場 料金 入場無料

主催：巴瑠の会



楽しく学ぶ歌舞伎の世界

歌舞伎とおしゃべりの会 2月の会 松井誠の華麗なる歌舞伎ワールド

日時 2/18(土) 14:00

妖艶な舞踊や鮮やかな立ち回りなどで多くの人を惹きつけ、大衆娯楽劇の第一線で活躍し続ける松井誠さん。その魅力はどこから生まれてくるのでしょうか？実は歌舞伎の演出を生かしている華やかで奥深い芸の世界に迫ります。

会場 小劇場

料金 全席指定 1,000円

発売中



ゲスト：松井誠



講師：葛西聖司

アー・キネマ倶楽部 2月
Title 『コーダ あいのうた』
上映時間112分／字幕
2021年／アメリカ／PG12

夢に向かって生きる、爽快で胸熱な感動作！

日時 2/19(日)・2/20(月) 各日10:00 / 13:30

高校生のルビーは、家族の中で一人だけ耳が聴こえるため、家族の“通訳”となっていた。そんな中、学校で合唱クラブを選択するルビー。すると、顧問の先生が歌の才能に気づき、名門音楽大学の受験を強く勧める。だが、歌声が聞こえない両親は娘の才能を信じられず、大反対。悩んだルビーは夢よりも家族の助けを続けることを選ぶと決めるが、思いがけない方法で娘の才能に気づいた父は、意外な決意をする…。

会場 映像シアター

料金 全席指定 900円 25才以下 450円

発売中



© 2020 VENDOME PICTURES LLC, PATHE FILMS

黒御簾音楽 — 笛の魅力に迫る

歌舞伎とおしゃべりの会 3月の会 芝居の笛 ～ 笛の魅力・黒御簾の音 ～ 藤舎理生の多彩な技

日時 3/18(土) 13:30

歌舞伎の笛奏者は男性です。しかし黒御簾など蔭では女性の活躍はかかせません。名人・藤舎名生(人間国宝)に入門から40年。横笛奏者、藤舎理生さんの生演奏で芝居の様々な音色を楽しみましょう。

会場 映像シアター

料金 全席指定 1,000円

発売日 1/21(土)



ゲスト：藤舎理生



講師：葛西聖司

けっして、色あせはしない みんなで創り繋ぐ、可児の物語



大型市民参加事業第12弾
市民ミュージカル

君といた夏 ～スタンドバイミー可児～

日時 3/4(土) 18:30・3/5(日) 14:00 ※開場は開演の45分前

参加者たちが自身で撮影した動画を繋いだ2022年の「キミナツムービー」を経て、2023年3月、待望の再々々演！舞台は昭和49年の可児。5人の少年たちの冒険を中心に繰り広げられるひと夏の物語。出演から裏方まで、およそ100名の市民によって作り上げられる可児市のミュージカル！

会場 主劇場

料金 全席指定 1,000円 ※4才から入場可 《全席指定》に変更となりました。

発売日 1/14(土)

主催：(公財)可児市文化芸術振興財団 後援：可児市、可児市教育委員会

東日本大震災から12年 ― 復興支援コンサート



日時 3/11(土) 13:45 ※開場 13:00

被災地の長く困難な復興のために、今年もコンサートを開催します。公演の収益と、お客様から頂いた支援金は、被災者の心の復興のために現地で活動している被災者支援団体に寄託します。

会場 主劇場

料金 全席指定 1,000円 ※4才から入場可

発売日 1/14(土)

|プログラム|

サラサーテ／ツィゴイネルワイゼン

マスネ／タイスの瞑想曲

J.S.バッハ／シャコンヌ、G線上のアリア ほか

ナビゲーター：佐野秀典(作曲・編曲家)



ピアノ：田村響



ヴァイオリン：垣内響太 ※岐阜市出身

新音楽監督の佐渡裕がアーラ初登場

佐渡裕×新日本フィルハーモニー交響楽団

日時 4/9(日) 16:00 ※開場 15:15

2023年4月に新日本フィルハーモニー交響楽団の第5代音楽監督に就任する佐渡裕が地域拠点契約を結ぶアーラに初登場。ソリストには実力派ピアニスト及川浩治を迎えて、華やかな名曲で新たな門出を祝います。

|プログラム|

グリンカ／歌劇「ルスランとリジミラ」序曲

ラフマニノフ／パガニーニの主題による狂詩曲

ベートーヴェン／交響曲第7番

会場 主劇場

料金 全席指定 7,000円 25才以下 3,500円

発売日 1/28(土)



指揮：佐渡裕



ピアノ：及川浩治



管弦楽：新日本フィルハーモニー交響楽団

チケット取扱／可見市文化創造センター・インフォメーション

ネットで
予約する



<https://www.kpac.or.jp>

24時間いつでも予約可能！ ネットでのカード決済も可能。
お支払い・お受取りはセブンイレブンまたはアーラ窓口で！



電話で
予約する

TEL. 0574・60・3050

お支払い・お受取りはセブンイレブンまたはアーラ窓口で！

9:00～19:00

(火曜休館／祝日の場合は開館 翌平日休み)

窓口で
購入する

窓口でご利用可能なカード



- 発売日は窓口・ネットで販売。電話予約は翌日からとなります。 ●表記のない公演の開場は開演30分前です。 ●振込による代金支払い・チケットの配送サービス(有料)もごさいます。
- 表記のない公演の未就学児の入場はご遠慮ください。託児サービスは中止しております。 ●25才以下のチケット料金は各種割引サービスの対象外です。
- 公演当日の混雑緩和のため、チケットの事前引き取りにご協力ください。また、当日は余裕を持ってご来場をお願いします。

簡単・便利自宅
でチケット予約



インターネット予約

みんなで観ると
最大30%割引！



ビッグコミュニケーションチケット

【ビッグコミュニケーションチケット】

- 4人～5人で10%割引
- 6人～7人で20%割引
- 8人以上は30%割引
- ※同一日時の公演を同時購入する場合のみ。

残席がダン！ダン！
安くなる！



DAN-DANチケット

【DAN-DAN チケット】

- 残席がある場合に限り公演日
- 《1週間前から20%割引》、《当日は半額》になります。
- ※インターネットは0時から。
- 窓口・電話は9時から。

日	曜	開演 予定	終演 予定	催事名	入場	問合せ先
---	---	----------	----------	-----	----	------

主劇場(宇宙のホール)

12	日	①12:30 ②16:00	①14:30 ②18:00	美濃加茂高等学校マーチングバンド・バトントワリング 20th Yearly Recital	全席指定 999 円	兼松・水野 黒井・柳	0574-26-7182
18	土	9:40	16:00	令和4年度 かわい幼稚園生活発表会	関係者	かわい幼稚園	0574-62-7180

小劇場(虹のホール)

4・5	土・日	④11:30 ⑤10:00	④19:00 ⑤18:00	ピアノフェスティバル松栄堂大会	無料	(株)松栄堂楽器 可児店	0574-63-3151
12	日	13:00	16:00	可児常磐津教室 巴瑠の会 第9回おさらい会	詳細は P4	可児市文化創造センター	0574-60-3311
18	土	14:00	16:00	歌舞伎とおしゃべりの会 2月の会 松井誠の華麗なる歌舞伎ワールド	詳細は P4	可児市文化創造センター	0574-60-3311
19	日	13:30	15:30	第29回 ピアノコンサート	無料	音の森ピアノ教室	090-1740-5586

ギャラリー

19~25	日~土	9:00	22:00	可児市役所 光画部写真展 初日 13:00 から 最終日 17:00 まで	無料	金子睦弘	0574-62-1111 (内線 3252)
-------	-----	------	-------	--	----	------	---------------------------

- ・入場者多数の場合、定員以上はご入場いただけません。主催者都合により入場制限をする場合がありますので、整理券等の有無につきましては事前に主催者にご確認ください。
- ・主催者都合により発行後内容が変更になる場合があります。催しの詳細につきましては主催者にお問い合わせください。・劇場につきましては本番ご利用日のみ掲載しております。
- ・駐車場に限りがありますので、公共交通機関の使用等をお願い致します。・2022/12/1 時点での申し込み状況、予定を掲載しています。

アール多文化共生プロジェクト2022「BORDER」関連企画

「違い」を感じるワークショップ & 交流会

日時 2/11(土・祝) 10:00-12:00

アール多文化共生プロジェクトは、人口の約8%が外国籍市民という特徴を持つ可児市において、さまざまなルーツを持つ市民と共に、多文化共生の目的で創作活動をするプロジェクトです。2022年夏には、『BORDER(境界線)』というテーマで、市民参加の演劇公演(鹿目由紀さん演出)をアールで行いました。

今回はその関連企画として、同じ可児市に暮らしていて様々な人が思う「人と違うこと」について感じるワークショップをします。演出家の鹿目由紀さんのワークショップ(60分)の後、日本人と外国籍の人で交流会(60分)をします。普段あまり日本人と外国籍市民がお互いを知る機会がありませんが、この機会にとなりの外国籍の人について知ってみませんか？

会場 土田地区センター 視聴覚室1・2

対象 18才以上なら誰でも可

申込方法

ワークショップ講師

参加費 無料

鹿目由紀(劇団あおきりみかん)

定員 15名程度

となりに住むブラジル・フィリ
ピンの人たちと話してみよう!



講師: 鹿目由紀



右のコードをスマートフォン
などで読み込んでご参加く
ださい。



「アーラまち元気部」活動レポート 感じたことを人に伝える《ラジオ》体験

今年度から新たな取り組みとして始まった「アーラまち元気部」。学校の枠をこえて集まった中高生たちが、地域の様々な人々と交流しながら、まちを元気にする活動をしています。これまで「ala20周年写真展」や「劇場たいけんツアー」、子どもたちへのワークショップ、イルミネーションの装飾作り、地域のイベントへの参加などの活動をしてきました。

始まった頃は見ず知らずのメンバーも、活動を重ねていくうちにコミュニケーションが生まれ、安心して集える仲間としての意識が芽生えてきました。彼ら彼女らにとって新しい体験は、緊張や不安を抱えることもあるでしょうが、自身が実体験としてリアルに感じたことは、大きな学びにつながり、またメンバー同士の個性を知るきっかけになっています。

そんなメンバーたちの体験を自分たちの口でレポートしてもらう「まち元気部ラジオ」の取り組みが2022年9月から始まりました。毎月第2土曜朝9時から放送しており、FMららの野田さんにラジオでの話し方のコツや、発声などプロの技を伝授してもらっています。まち元気部は中学1年生の子たちが多く、ラジオで緊張するのではないかなと思ったのですが、意外にもみんなラジオブースに入っても、フリートークで大人たちを笑わせてくれる話が飛び出したり、タイトルコールをおもいきり叫んだり、いつものノリでその場を楽しんでいます。

ラジオという場で、自分が感じたことを人に伝える。時にはうまく言葉で表現できなかったり、噛んでしまうこともあるけれど、中高生のうちからラジオ番組を作るという体験に触れることは、いろんな学びに繋がっているように感じます。将来、ラジオのパーソナリティや制作スタッフ、声の仕事に就く人がこの中から生まれるかもしれません。

とにかく子どものうちからいろんな体験をしてもらいたい。それが「まち元気部」の願いです。いろんな活動に参加し、いろんな人と出会うことで、彼ら彼女らの将来の選択肢が広がってくれたらと思っています。

(顧客コミュニケーション室 松浦)



▲「まち元気部ラジオ」FMらら出演の様子

館長エッセイ

あけましておめでとうございます。

essay

可児市文化創造センター館長 箆橋義朗

皆様方におかれましては、新春を晴々しい気持ちでお迎えのこととお慶び申し上げます。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。いまだコロナの渦中ですが、「冬来たりなば、春遠からじ」の思いで、いろいろな制約からの解放を待つかありません。そんな中で来館者の方から「アーラが市外の方々からとても高い評価を受けている」というお言葉を頂きました。大変うれしい言葉でした。アーラで働く職員全員の苦労が報われる思いです。

アーラでは、音楽・演劇・伝統芸能などの公演事業もさることながら、「元気なまちづくりに貢献したい」という想いから社会包摂型の活動として、市内小中学校対象のコミュニケーション能力向上を目指したワークショップや芸術体験を拡げる活動、若者にもっと気軽にアーラでの鑑賞体験を楽しんでもらうためのチケット制度(25才以下半額)や地元企業・団体からの善意の寄付による「私のあしながおじさんプロジェクト」で地域の子どもたちに公演チケットを贈るなど、様々な工夫を凝らして来館をお待ちしています。

また、芝生を敷き詰めた水と緑の広場でも芝生の養生は定期的に行っておりピクニックや散策に訪れる方々の格好の場所になっています。そして様々な施設利用の際には規則を時には「なるべく制限をせず」運用しており、来館者の良心と善意に大いに期待しているところです。ただしこれらの工夫はなかなか伝わりにくく、体験した方々には好評でも大きな声にはなりにくいのも現実です。私たちはこういう目に見えない心遣いや施設運用をもっと市民の皆様に伝わるよう努力しなければいけないと思っています。

まだまだ紹介したいことはたくさんありますが、この敷地・建物・劇場の中で行われるすべてをまとめて社会包摂型の運営と理解しています。皆様に居心地のよい空間を提供することを分かりやすくしたいと思い、「アーラを「えがおの劇場」として皆様がイメージできるようにしていきたいと思っています。そして市民の皆さんが、自慢できるようなアーラになるよう引き続きご支援、ご愛顧いただきますよう、よろしくお願いいたします。



ala がお届け！はじめての落語体験 おでかけ落語会

10月25日から28日の4日間、市内中学校5校を対象にプロの落語家による〈おでかけ落語会〉を実施しました。落語を生徒の皆さんに聴いてもらうだけでなく、落語で必須のアイテムとなる扇子や手拭いを使った表現などを実演しながら解説するなど、日本が誇るべき伝統話芸の魅力や表現の奥深さを知ってもらう機会となりました。



落語家の桂やまとです。先日はこちら可児市にて「おでかけ落語会」と銘打って、5校の中学校で落語を聴いていただきました。どうもありがとうございます！

学校公演で必ず皆さんにお聞きするんですが、今回もライブの落語は初めてという方がどの学校でもほとんどでしたね。巡り合う機会は人それぞれです。中学生というのは実にベストタイミングだと思いますね。あたしなんかは寄席が近くにある東京の下町に生まれ育ちながら、初めて落語そのものを聴いたのが19歳の時でした。場所は浅草演芸ホールだったんですが、その1回目の寄席体験で見事にハマって今があります。それまではエレキギターにしか興味がなかったんですがねえ……。エレキが扇子に代わる日が来るとは思ってもみませんでした。

今回、目の前でワクワク楽しんでいる中学生の皆さんを見て、そして先生方も「子どもたちってこんなに笑うんだ！」という驚いた表情を見て、可児市のすべての学校であたしの落語を楽しんでいただきたいって心から思いました。

お笑いにもいろんなジャンルがあります。その中でも道具は扇子と手拭いだけで、座布団一枚に座って左右を向きながら物語を進めるという世界で唯一のスタイルを持つ『落語』。江戸や明治の風景に演者と一緒にご覧になって想像をふくらませるこの芸能を、皆さんも生で体験してみませんか？

こうして可児市の方々とご縁ができて嬉しい限りです。またぜひぜひ伺いたいと思っています。これからもどうぞよろしくお願いいたします。



桂やまと（落語家）

1974年8月30日、東京都荒川区西尾久生まれ。1999年3月、中央大学卒業とともに桂才賀に入門。2014年3月、真打昇進とともに名跡「桂やまと」を三代目として89年ぶりに襲名。

広陵中での様子

【体験した中学生からのアンケート 一部抜粋】

・落語はいままでなじみがなくて生で見たことがなかったけど、また見たいって思えるくらいおもしろかったです。一時間があったという間にすぎた気がします。今回の落語会のおかげで少し落語に興味ができました。また機会があったら落語を見たいです。

・一人で何役も演じていて、とてもすごいと思いました。限られたものしか使っていないのに様々なことができて、改めて落語家の人はすごいと思いました。
・いつもテレビで見ているものとは迫力が違い、新鮮で面白かったです。



1月のおすすめ

冬の人気No.1『いちご大福サンド』

本年初めてご紹介するサンドイッチは、冬の人気No.1『いちご大福サンド』です。

人気のいちごサンドに、求肥と白餡を合わせたじゃぱんサンドイッチのオリジナルです。

一口食べれば、まるで大福！ここでしか味わえない新感覚のサンドイッチを是非お楽しみくださいませ♪

TEL 0574-63-5223

営業時間 9:00～20:00

アラ主催・共催公演チケット提示で、公演日から1カ月間、飲食代が10%OFF（一部対象外公演あり） ※お一人様チケット1枚につき1回限り有効

可児市文化創造センター ala

〒509-0203 岐阜県可児市下恵土3433-139
https://www.kpac.or.jp

開館時間／9:00～22:30

info@kpac.or.jp
TEL.0574-60-3311 FAX.0574-60-3312

休館日 1月は10、17、24、31日
2月は7、14、21、28日
※年末年始休館は12月27日～1月4日
(火曜休館／祝日の場合は開館 翌平日休み)



@kani_ala